

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

## セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様をあげます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポーシジョンの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでもいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

# デーヴォ ガイド



**2023.1.16-22**

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポーシジョンの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。



3:1 最後に、私の兄弟たち、主にあって喜びなさい。私は、また同じことをいくつか書きますが、これは私にとって面倒なことではなく、あなたがたの安全のためにもなります。

3:2 犬どもに気をつけなさい。悪い働き人たちに気をつけなさい。肉体だけの割礼の者に気をつけなさい。

3:3 神の御霊によって礼拝し、キリスト・イエスを誇り、肉に頼らない私たちこそ、割礼の者なのです。

3:4 ただし、私には、肉においても頼れるところがあります。ほかのだれかが肉に頼れると思うなら、私はそれ以上です。

3:5 私は生まれて八日目に割礼を受け、イスラエル民族、ベニヤミン部族の出身、ヘブル人の中のヘブル人、律法についてはパリサイ人、

3:6 その熱心については教会を迫害したほどであり、律法による義については非難されるところがない者でした。

3:7 しかし私は、自分にとって得であったこのようなすべてのものを、キリストのゆえに損と思うようになりました。

3:8 それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、私はすべてを損と思っています。私はキリストのゆえにすべてを失いましたが、それらはちりあくただと考えています。それは、私がキリストを得て、

3:9 キリストにある者と認められるようになるためです。私は律法による自分の義ではなく、キリストを信じることによる義、すなわち、信仰に基づいて神から与えられる義を持

つのです。

3:10 私は、キリストとその復活の力を知り、キリストの苦難にもあずかって、キリストの死と同じ状態になり、

3:11 何とかして死者の中からの復活に達したいのです。

イエス様の十字架によって救われた人々の集まりである教会で、まだほかに救いの条件があるかのように主張する人々がいました。割礼を受けなければ救われれないと言う人々がそれで、パウロは犬ども表現しています。

割礼とは神の民であることの印ですが、それはあくまでも十字架による救いを知るための、ひとつの備えでした。パウロが言うとおりに、救われた者が「心に割礼」すなわち印を持っていることが本当の在り方なのです。私たちも外面や人からの見たとらわれることなく、心を大切にしましょう。すなわち主が分かってくださるということ重要にして、自分のアイデンティティーを確立していきましょう。

そのようなパウロは、以前の自分のプライドは、永遠の救いにくらべたら「損」とさえ感じると言っています。救われたことの絶大な価値を忘れることなく、また薄めることなく、大きな感謝をささげて生きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は抜おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ▶ 17日 火曜

### ピリピ



3:12 私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕らえようとして追求しているのです。そして、それを得るようと、キリスト・イエスが私を捕らえてくださったのです。

3:13 兄弟たち。私は、自分がすでに捕らえたなどと考えることはありません。ただ一つのこと、すなわち、うしろのものを忘れ、前のものに向かって身を伸ばし、

3:14 キリスト・イエスにあって神が上に召してくださるといふ、その賞をいただくために、目標を目指して走っているのです。

3:15 ですから、大人である人はみな、このように考えましょう。もしも、あなたがたが何か違う考え方をしているなら、そのことも神があなたがたに明らかにしてくださいませ。

3:16 ただし、私たちは到達したところを基準にして進むべきです。

3:17 兄弟たち。私に做らう者となってください。また、あなたがたと同じように私たちを手本として歩んでいる人たちに、目を留めてください。

3:18 というのは、私はたびたびあなたがたに言ってきたし、今も涙ながらに言うのですが、多くの人がキリストの十字架の敵として歩んでいるからです。

3:19 その人たちの最後は滅びです。彼らは欲望を神とし、恥ずべきものを栄光として、地上のことだけを考える者たちです。

3:20 しかし、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、私たちは待ち望んでいます。

3:21 キリストは、万物をご自分に従わせるこ

とさえできる御力によって、私たちの卑しいからだを、ご自分の栄光に輝くからだと同じ姿に変えてくださいます。

成人とは完成された人のことを考えるのが、世の一般的な感覚かもしれませんが、それは神なしで人間だけで生きようとする価値観です。

神様がおられて、その神さまに愛されている以上、私たちは神とともに歩むのです。そしてどんなに立派は人でも聖にして全能な神の御前では、不完全な罪人にしか過ぎないのです。であれば、「完全にされているのでもありません」と、パウロのように、もっと成長し前進するのだという、謙遜と意欲を持った人が、主の前で成人なのです。このことを忘れないようにしましょう。

かといって「すでに達している」救いまでも、変わっていかねばならないと考える必要はありません。これを「基準として、進むべき」です。私たちが変わらない救いの信仰にしっかり立ち、自分自身は変わってゆく、すなわち成長・前進してゆく者でありましょう。

パウロのように、自分のアイデンティティーを永遠の神の国にしっかり結びつけて、希望を持って人生を切り拓いていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ▶ 18日 水曜

### ピリピ



4:1 ですから、私の愛し慕う兄弟たち、私の喜び、冠よ。このように主にあって堅く立ってください。愛する者たち。

4:2 ユウオディアに勧め、シンティケに勧めます。あなたがたは、主にあって同じ思いになってください。

4:3 そうです、真の協力者よ、あなたにもお願いします。彼女たちを助けてあげてください。この人たちは、いのちの書に名が記されているクレメンスやそのほかの私の同労者たちとともに、福音のために私と一緒に戦ったのです。

4:4 いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。

4:5 あなたがたの寛容な心が、すべての人に知られるようにしなさい。主は近いのです。

4:6 何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。

4:7 そうすれば、すべての理解を超えた神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。

ここでパウロは一致を勧めます。どんなに個人個人の信仰が立派でも、兄弟姉妹の間に一致がなければ、主の前には不十分です。すなわちそれぞれの行動や目的がバラバラで、互いの協力もなく、分かち合いもなければ問題です。主のみわざは進んで行かないでしょう。主のお役に立つ共同体ではありませんし、その一員としての個人も何かが問題なのです。

パウロが言うのには、本当の一致とは、「同労者たちとともに、福音のために...一緒に戦った」ということです。身の周りに、主のために何かをしようとする人、またはしている人はいないでしょうか。

彼らと一緒に戦う（苦勞してチャレンジする）ことから、神の共同体の真の一致が始まります。そして主のみわざが前進します。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は抜おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





4:8 最後に、兄弟たち。すべて真実なこと、すべて尊ぶべきこと、すべて正しいこと、すべて清いこと、すべて愛すべきこと、すべて評判の良いことに、また、何か徳とされることや称賛に値することがあれば、そのようなことに心を留めなさい。

4:9 あなたがたが私から学んだこと、受けたこと、聞いたこと、見たことを行いなさい。そうすれば、平和の神があなたがたとともにいてくださいます。

4:10 私を案じてくれるあなたがたの心が、今ついによみがえってきたことを、私は主にあって大いに喜んでいますが、あなたがたは案じてくれていたのですが、それを示す機会がなかったのです。

4:11 乏しいからこう言うのではありません。私は、どんな境遇にあっても満足することを学びました。

4:12 私は、貧しくあることも知っており、富むことも知っています。満ち足りることに、飢えることに、富むことに乏しいことにも、ありとあらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。

4:13 私を強くしてくださる方によって、私はどんなことでもできるのです。

競争で人を出し抜く者が勝者とされるこの世では、失敗や間違いを探ることが多くなりがちです。また失敗を避けようとするあまり、誰かに責任を取らせようと、犯人探しに話題が集中しがちです。また新聞などのマスコミも同じで、悪や過失を話題にすることが使命のようです。しかしパウロはそれだけではないと言います。

すべての真実、誉れ、正しいこと、清いこと、愛すべきこと、評判の良いこと、徳と言われること、

称賛に値することがあるなら、それらのすべてに目を留めなさいと言っています。聖書の真の著者は、背後にある主ご自身ですから、それは主からのご命令でもあります。

私たちは神をないがしろにする世が、いかに罪にまみれているかを知っていますから、今さら悪に集中する必要はありません。むしろ自分自身も主のみこころを歩むために、その励ましを受けるために、すばらしいことに目を留めた方が良いのです。

そこから健全な信仰が生まれます。そうして「私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできる」との、積極的な信仰を持つて前進することができるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



4:14 それにしても、あなたがたは、よく私と苦難を分け合ってくれました。

4:15 ピリピの人たち。あなたがたも知っているとおりに、福音を伝え始めたころ、私がマケドニアを出たときに、物をやり取りして私の働きに関わってくれた教会はあなたがただけで、ほかにはありませんでした。

4:16 テサロニケにいたときでさえ、あなたがたは私の必要のために、一度ならず二度までも物を送ってくれました。

4:17 私は贈り物を求めているのではありません。私が求めているのは、あなたがたの霊的な口座に加えられていく実なのです。

4:18 私はすべての物を受けて、満ちあふれています。エパフロディトからあなたがたの贈り物を受け取って、満ち足りています。それは芳ばしい香りであって、神が喜んで受けてくださるささげ物です。

4:19 また、私の神は、キリスト・イエスの栄光のうちにあるご自分の豊かさにしたがって、あなたがたの必要をすべて満たしてくださいませ。

4:20 私たちの父である神に、栄光が世々限りなくありますように。アーメン。

4:21 キリスト・イエスにある聖徒の一人ひとりに、よろしく伝えてください。私と一緒にいる兄弟たちが、あなたがたによろしくと言っています。

4:22 すべての聖徒たち、特にカエサルの家に属する人たちが、よろしくと言っています。

4:23 主イエス・キリストの恵みが、あなたがたの霊とともにありますように。

めに大いにささげ、経済的にも力になりました。献金は神さまにささげるものですが、実際的には働きの生活を支えて働きを続けられるようにし、または旅費など経費に充てられて、働きが実現できるように役立ちます。

福音の宣教や人の救いというのは、モノを生み出すではありませんから、仕入れや設備投資など物品を得ることはありません。また利益を求めるわけではありませんから、利潤を生み出すのでもありません。企業の論理から言ったら、お金によってお金を産み出すことのない、有り得ない世界です。

しかしそのような働きにこそ、主の大いなるみわざがあります。永遠のいのちのためであるならどんなに献げても惜しくないと思える信仰によって、多くの働きと働き人が支えられ、福音が宣べ伝えられ、人々は救われてゆくのです。

そして献げた人には、主が報いて余りある祝福で満たしてくださいませ。それが献金です。ですからパウロは「霊的祝福」と言っているのです。主に期待して献げ、主のみわざを体験しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？







1:1 エフライムの山地ラマタイム出身のツフ人の一人で、その名をエルカナという人がいた。この人はエロハムの子で、エロハムはエリフの子、エリフはトフの子、トフはエフライム人ツフの子であった。

1:2 エルカナには二人の妻がいた。一人の名はハンナといい、もう一人の名はペニンナといった。ペニンナには子がいたが、ハンナには子がいなかった。

1:3 この人は、毎年自分の町から上って行き、シロで万軍の【主】を礼拝し、いけにえを献げることになっていた。そこでは、エリの二人の息子、ホフニとピネハスが【主】の祭司をしていた。

1:4 そのようなある日、エルカナはいけにえを献げた。彼は、妻のペニンナ、そして彼女のすべての息子、娘たちに、それぞれの受ける分を与えるようにしていたが、

1:5 ハンナには特別の受ける分を与えていた。【主】は彼女の胎を閉じておられたが、彼がハンナを愛していたからである。

1:6 また、彼女に敵対するペニンナは、【主】がハンナの胎を閉じておられたことで、彼女をひどく苛立たせ、その怒りをかき立てた。

1:7 そのようなことが毎年行われ、ハンナが【主】の家の上って行くたびに、ペニンナは彼女の怒りをかき立てるのだった。こういうわけで、ハンナは泣いて、食事をしようとしなかった。

1:8 夫エルカナは彼女に言った。「ハンナ、なぜ泣いているのか。どうして食べないのか。どうして、あなたの心は苦しんでいるのか。」

あなたにとって、私は十人の息子以上の者ではないか。」

偉大な預言者サムエルの誕生のいきさつです。このように誰の人生にも神様は目的と使命を考えておられます。それゆえに私たちの誕生から始まる人生のすべてに、主は意味を与えておられるのです。自分自身の出自が主にあつてすばらしいものであることを覚えましょう。またこれまでの導きに感謝し、主の聖善と祝福を確信しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？



1:9 シロでの飲食が終わった後、ハンナは立ち上がった。ちょうどそのとき、祭司エリは【主】の神殿の門柱のそばで、椅子に座っていた。

1:10 ハンナの心は痛んでいた。彼女は激しく泣いて、【主】に祈った。

1:11 そして誓願を立てて言った。「万軍の【主】よ。もし、あなたがはしための苦しみをご覧になり、私を心に留め、このはしめを忘れず、男の子を下さるなら、私はその子を一生の間、【主】にお渡しします。そしてその子の頭にかみそりを当てません。」

1:12 ハンナが【主】の前で長く祈っている間、エリは彼女の口もとをじっと見ていた。

1:13 ハンナは心で祈っていたので、唇だけが動いて、声は聞こえなかった。それでエリは彼女が酔っているのだと思った。

1:14 エリは彼女に言った。「いつまで酔っているのか。酔いをさましなさい。」

1:15 ハンナは答えた。「いいえ、祭司様。私は心に悩みのある女です。ぶどう酒も、お酒も飲んでおりません。私は【主】の前に心を注ぎ出していたのです。」

1:16 このはしめを、よこしまな女と思わないでください。私は暮る憂いと苛立ちのために、今まで祈っていたのです。」

1:17 エリは答えた。「安心して行きなさい。イスラエルの神が、あなたの願ったその願いをかなえてくださるように。」

1:18 彼女は、「はしめが、あなたのご好意を受けられますように」と言った。それから彼女は帰って食事をした。その顔は、もはや以前ようではなかった。

ハンナは悩んでいましたが、祭司は靈的な洞察力に乏しく、「酔っている」などと言ってしまいました。それでもハンナは祭司を、その働きゆえに尊重し、祈りました。そしてそれゆえに「以前のようにではなかった。」という信仰が与えられ、解決したのです。

私たちも悩みがありますが、その苦悩さえも主への信頼によって、意義あるものとしていただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

